

ベトナム社会主義共和国 バックマイ病院プロジェクト 中間評価報告書

平成 15 年 1 月
(2003 年)

国際協力事業団
医療協力部

医 協 一
J R
03-08

序 文

ベトナム社会主義共和国バックマイ病院プロジェクトは、北部中核病院であるバックマイ病院の機能向上及びベトナム北部地域全体の医療サービスの質の向上をめざして、平成12年1月から5年間の協力期間で開始されました。

今般、プロジェクト開始から約3年が経過しており、国際協力事業団はベトナム社会主義共和国関係者と合同でプロジェクトのこれまでの活動実績及び進捗状況を把握し、今後のプロジェクトの方向性を検討することを目的として、平成14年11月17日から11月30日までの日程で、国立国際医療センター病院長 小堀 鷗一郎氏を団長とする中間評価調査団を派遣しました。

本報告書は、上記調査団の調査結果を取りまとめたものです。ここに、本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表しますとともに、今後とも本件技術協力の成功のため、引き続きご指導、ご協力を頂けますようお願い申し上げます。

平成15年1月

国際協力事業団

医療協力部長 藤崎清道

目 次

序 文

目 次

略語表

評価調査結果要約表

地 図

写 真

第1章 中間評価の概要	1
1 - 1 中間評価調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	2
1 - 5 調査項目・評価手法	4
第2章 プロジェクトの実績と現状	6
2 - 1 実績と現状の総括	6
2 - 2 投入実績	6
2 - 2 - 1 日本側投入	6
2 - 2 - 2 ベトナム側投入実績	10
2 - 3 活動実績	14
2 - 4 実施プロセス	21
2 - 4 - 1 PDMの変遷	21
2 - 4 - 2 指 標	21
2 - 4 - 3 専門家とカウンターパートの関係	21
2 - 4 - 4 受益者の事業へのかかわり方	22
2 - 5 成果達成状況	23
2 - 5 - 1 病院管理	23
2 - 5 - 2 臨床医学	28
2 - 5 - 3 看護管理分野	33
2 - 5 - 4 検査室管理分野	34
2 - 5 - 5 地域医療	34

第3章 評価結果	37
3 - 1 評価結果の総括	37
3 - 1 - 1 院内について	37
3 - 1 - 2 院外について	38
3 - 2 評価5項目による評価結果	39
3 - 2 - 1 妥当性	39
3 - 2 - 2 有効性	44
3 - 2 - 3 効率性	47
3 - 2 - 4 インパクト	49
3 - 2 - 5 自立発展性	51
第4章 今後の計画	53
4 - 1 技術移転状況と今後の計画	53
4 - 1 - 1 病院管理(臨床医学を含む)	53
4 - 1 - 2 トータルケア	54
4 - 1 - 3 地域医療	55
4 - 2 提 言	56
付属資料	
1 . ミニッツ(Joint Evaluation Report)	59
2 . PDMe	122
3 . 主な調査項目と情報・データ収集方法	126
4 . 評価グリッド(Evaluation Grid)	129
5 . 成果品リスト(出版物)	144
6 . 医療の質を計る指標	149
7 . PDM指標	154
8 . ヴィエトナム・バックマイ病院プロジェクト進捗状況(小原 博チーフアドバイザー) ...	194

略 語 表

ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
BMH	Bach Mai Hospital	バックマイ病院
DOHA	Direction Office of Healthcare Activities at Provincial and Lower Level	地域医療指導部
HIS	Hospital Information System	病院情報システム
GPD	General Planning Department	総合企画部
ICP	Inter-Commune Polyclinic	コミューン間総合診療所
IEC	Information, Education and Communication	教育・啓発
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力事業団
MOH	Ministry of Health	保健省
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OPD	Out-Patient Department	外来棟
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
WB	World Bank	世界銀行

評価調査結果要約表

案件概要	国名：ベトナム社会主義共和国		案件名：バックマイ病院プロジェクト
	分野：保健医療		援助形態：プロジェクト方式技術協力
	所管部署：医療協力部		協力金額（無償資金協力のみ）：60億3,000万円
	協力期間	(討議議事録：R/D)	先方関係機関：保健省、バックマイ病院
		2000年1月10日～ 2005年1月9日	我が方協力機関：国立国際医療センター 他の関連協力：大江 和彦 東京大学大学院教授
協力の背景と経緯 ベトナム社会主義共和国（以下「ベトナム」と記す）では、国家の保健医療政策において保健医療の質及び保健医療ネットワークの改善が最重要課題としてあげられており、これに基づき、地方への裨益効果を前提とした基幹病院の整備が重視されている。バックマイ病院は1911年にフランスにより設立されて以来、内科系を中心としたトップレファラルの総合病院として、ベトナム北部における住民の保健衛生に貢献してきた。同病院は診療に加え、教育・研修、研究、地方の医療機関に対する指導等の使命も担っているが、施設・機材の老朽化、病床数の不足、職員のトレーニング不足、管理能力不備等の問題のために十分な機能が果たせない状態であった。このため、ベトナム政府は、バックマイ病院の機能を向上させ、ベトナム全体のトップレファラルの一つとして十分な機能を果たすようになることを目的とした技術協力を我が国に要請してきた。			
協力内容 〈上位目標〉ベトナム北部の医療サービスが改善する 〈プロジェクト目標〉バックマイ病院において医療サービスの質が改善する 〈期待される成果〉 1) バックマイ病院の病院管理能力が向上する 2) 臨床医学の診断・治療技術が向上する 3) 看護管理能力が向上する 4) 検査室管理能力・検査技術が向上する 5) 地域医療指導能力が向上する 〈主な活動〉 1) 病院企画、病院管理技術の改善 2) 研修カリキュラム・マニュアルの整備・作成 3) 病歴管理の改善、病院情報システムの導入 4) 機材保守管理の改善 5) 診療技術・検査技術の改善 6) 精度管理技術や検査記録・報告システムの改善 7) 看護研修プログラムの改善、看護ケアの指導 8) 地域医療体制の強化、対象地域の医療情報収集システムの構築			
投入（評価時点） 〈日本側〉 長期専門家派遣：延べ9人（222人／月）、短期専門家派遣：延べ51人 機材供与：1億8,664万1,000円、現地業務費：7,440万2,000円、研修員受入れ：12人 〈相手側〉 カウンターパートの配置（年平均約65人）、ローカルコストの負担、土地・施設提供、その他			

調 査 者	担当分野	氏 名	職 位
	団長／総括	小堀 鷗一郎	国立国際医療センター 病院長
	プロジェクト管理	建野 正毅	国立国際医療センター 国際医療協力局 派遣協力 第一課 課長
	看護管理	山西 文子	国立国際医療センター 看護部長
	協力企画	竹内 清佳	国際協力事業団 医療協力部 医療協力第一課
	評価分析	渡辺 博	東洋エンジニアリング株式会社 コンサルタント部
調査期間	2002年11月17日～11月30日		評価種類：中間評価

1. 評価結果の要約

(1) 妥当性

本プロジェクト開始前、バックマイ病院は北部ベトナムの基幹病院でありながら、機材の老朽化や技術の遅れにより、トップレファラル病院としての機能を果たせない状況にあった。日本の無償資金協力により施設が近代化されたのに引き続き、本プロジェクトによって、設備の近代化、新技術が移転されたことはまことに意義のあることであった。本プロジェクトは、ベトナム政府保健医療政策の基幹病院育成方針に合致しており、また日本の援助計画にも合致している。

(2) 有効性

本プロジェクトにより設備が近代化され、運営や技術が向上したことにより、医療サービスの質は向上し、バックマイ病院に対する患者の信頼度、満足度は向上した。患者数は増加しており、調査の結果、満足度が高いことも証明された。院内感染率等、病院の質を表す指標も向上している。

(3) 効率性

IEC活動の行われる前に北部の地方病院にビデオ機材が搬入されたことにより、IECで作成したビデオ教材が活用されるなど、すべての投入はタイミングよく実施された。また、日本で研修を受けたスタッフが全員定着して、研修で学んだ技術を他のスタッフに移転しているが、これは他のプロジェクトの例と比較して稀有なケースであり、高く評価できる。

(4) インパクト

バックマイ病院の診療対象地域は北部31省、対象人口は2,500万人で、ベトナム全省の51%、人口の32%を対象としている。バックマイ病院はレファラル病院として地方病院から移送される患者の診療を担当しているほか、地方病院の教育、研修、疾病予防、地域に対する医療指導、情報提供を担当しており、バックマイ病院の機能向上はベトナム北部地域医療の向上に直接寄与している。

バックマイ病院の設備が整備され、機能が向上し、患者の信頼性が向上したことによって、同病院の患者が急増し、病床が満床となるなど、トップレファラル病院としての機能を維持するのにぎりぎりの状態となっている。

(5) 自立発展性

ベトナム政府保健医療政策では、今後とも、基幹病院の整備、医療従事者の訓練強化、地域医療強化を重視しており、予算も確保される見通しであることが確認された。病院収支は患者の増加により、1999年以降黒字化しており、財務上の問題はない。技術に関しては各科で抄読会が開催されるなど、自主的な活動により向上が図られており、研究活動も活発化して、発表論文数も増加している。また、院内の運営に関しては委員会方式により自主的に実施されている。

(6) 結 論

バックマイ病院プロジェクトは順調に実施されつつあり、いくつかの成果は達成しつつあって、このまま活動が継続されれば、重要な外部条件の変更がない限り、終了時にはプロジェクト目標も達成されるものと思料された。プロジェクト後半はまだ開始されていない活動を開始するとともに、トータルケアの視点から、様々な形態で更なるトレーニングを実施することが医療サービスの質改善に貢献するものと思料される。また、上位目標であるベトナム北部の医療サービス改善のためには、機材と新医療技術の移転ニーズについて病院側と検討が必要であるほか、「北部保健医療体制強化プロジェクト」との連携についても検討が必要である。

2. 効果発現に貢献した要因

(1) 我が方に起因する要因

本プロジェクトは我が国の援助方針に合致しており、「我が国のベトナムへの援助を代表するプロジェクト」として認識されていることから、関係各機関より積極的な支援があり、すべての投入が適切なタイミングで実施されたことが、効果発現に貢献したと思料される。

(2) 相手方に起因する要因

本プロジェクトはベトナムの保健医療政策の基幹病院育成方針に合致しており、予算配分、トータルケアパイロット病院指定等、十分な支援が受けられている。バックマイ病院側にはベトナムのトップレファラル病院としての矜持があり、カウンターパート研修員が全員病院に残っているなど、プロジェクト実施の意欲が極めて高く、積極的であることが効果発現に貢献している。

3. 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 我が方に起因する要因

2002年9月にチーフアドバイザーが交代した後、バックマイ病院側の多忙もあり、終了に向けてプロジェクト後半の活動をどう進めていくか、各活動の目的、内容の見直し、研修センター設立、北部保健医療体制強化プロジェクトとの連携、それによるPDMの修正等について、十分な議論がなされていないことが観察された。

(2) 相手方に起因する要因

組織、機能が縦割りになっていることが、トータルケア導入のための医師・看護師間の協力、業務閑繁に応じた看護師の部間人事異動、看護師の薬剤業務・会計業務の見直し、研修企画の統一化、病院情報管理システムの統合化等の障害要因となっている。

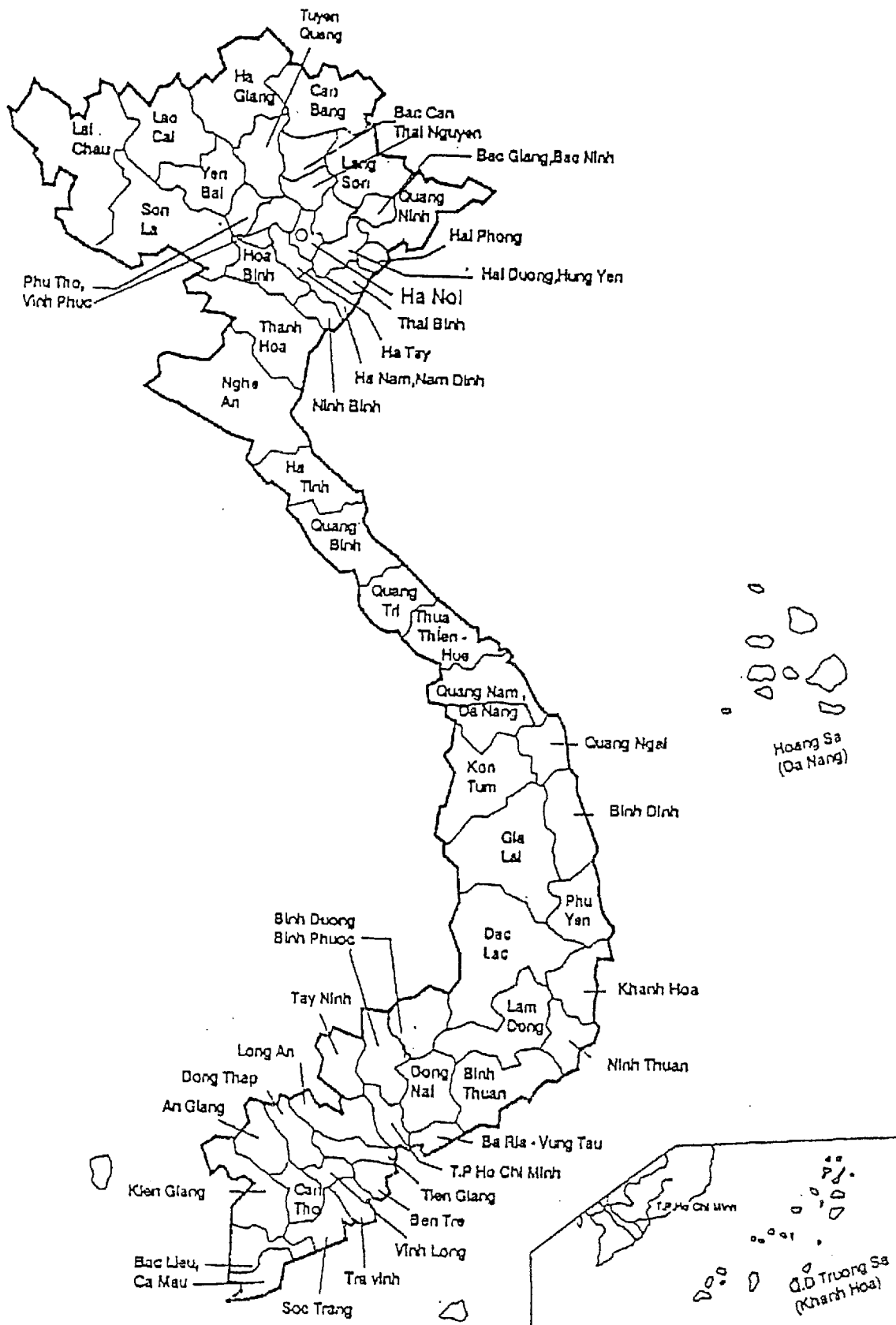
4. 提 言

- (1) トータルケアの視点からバックマイ病院の医療サービスの質は継続して向上させるべきである。
- (2) プロジェクトは様々な分野の研修を今後も継続して実施し、研修システムを更に強化すべきである。
- (3) 研修センター設立に向け、プロジェクトはその目的と内容につき議論を行う。
- (4) 病院活動をより効率的に実施するために、各部（科）の関係を更に強化する。
- (5) 看護部、総合企画部、地域医療指導部（DOHA）が、より機能できるように強化する。
- (6) 診断、診療、医療記録管理、看護管理、訓練カリキュラム等の標準化は今後も継続する。

- (7) 情報システムの導入は今後も継続し、外来科、救急科、総合企画部、トータルケアモデル病棟の病院情報システム（HIS）は統合化すべきである。また、病院情報管理センターを病院長直轄で設立すべきである。
- (8) 薬剤管理業務に関する活動を強化すべきであり、また、心臓内科、神経内科、外科のための活動も行われることが望ましい。
- (9) ベトナム北部地域の医療サービス改善の視点から、機材と新医療技術の移転ニーズについて、JICA専門家とバックマイ病院で検討する。
- (10) プロジェクト後半の実態に従い、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）を修正する。

ベトナム社会主義共和国地図

(61 Provinces)





Ha Nam省総合病院視察



Ha Nam省総合病院視察



評価ワークショップ



合同中間評価報告書の協議



ミニッツの協議



ミニッツの署名

第 1 章 中間評価の概要

1 - 1 中間評価調査団派遣の経緯と目的

ベトナム社会主義共和国(以下、「ベトナム」と記す)では、保健医療の質及び保健医療ネットワークの改善が最重要課題としてあげられており、これに基づき、地方への裨益効果を前提とした基幹病院の整備が重視されている。バックマイ病院(BMH)は1911年にフランスにより設立されて以来、内科系を中心としたトップレファラルの総合病院として、ベトナム北部における住民の保健衛生に貢献してきた。同病院は診療に加え、教育・研修、研究、地方の医療機関に対する指導等の使命も担っているが、施設・機材の老朽化、病床数の不足、職員のトレーニング不足、管理能力の不備等の問題のために十分な機能が果たせない状態である。このため、ベトナム政府は、バックマイ病院の機能を向上させ、国全体のトップレファラル病院の一つとして十分な機能を果たすようになることを目的とした技術協力を我が国に要請し、2000年1月10日からバックマイ病院の機能強化のためのプロジェクトが開始された。現在は長期専門家5人及び短期専門家3人が派遣されており、主な協力活動内容は、バックマイ病院の病院管理能力の向上、臨床医学の診断・治療技術の向上、看護管理能力の向上、検査室管理能力・検査技術の向上、地域医療指導能力の向上等である。

プロジェクトが開始してから2年10か月が経過し、協力も中盤を迎えるため、これまでの活動進捗状況を把握し、中間評価を行ったうえで、今後のプロジェクトの方向性についてベトナム側と協議し、今後の活動に対する助言を行うことを目的とする中間評価調査団を派遣した。

上記調査団は、以下の4項目について調査を実施した。

- (1) プロジェクト関係者(ベトナム側カウンターパート及び関係機関並びに専門家チーム)との意見交換、並びに活動現場の視察により、プロジェクトの進捗状況の確認と課題、問題点の把握を行う。
- (2) ベトナム側との協議を通じて、現在までの活動状況を合同でレビューするとともに、目標と活動内容の整合性を検討する。
- (3) (1) (2)を踏まえて当初計画の見直しと調整を行い、今後の活動計画を策定する。
- (4) 一連の調査、協議を通じて双方で合意した事項について、ミニッツに取りまとめる。

1 - 2 調査団の構成

担当分野	氏 名	所 属
団長 / 総括	小堀 鷗一郎	国立国際医療センター 病院長
プロジェクト管理	建野 正毅	国立国際医療センター 国際医療協力局 派遣協力第一課 課長
看護管理	山西 文子	国立国際医療センター 看護部長
協力企画	竹内 清佳	国際協力事業団 医療協力部 医療協力第一課
評価分析	渡辺 博	東洋エンジニアリング株式会社 コンサルタント部

1 - 3 調査日程

期間：2002年11月17日～同年11月30日

日順	月 日	曜日	調 査 内 容
1	11月17日	日	コンサルタント団員移動（JL731 成田 9:50発→香港→ハノイ 16:05着）
2	11月18日	月	プロジェクト専門家・JICA事務所・バックマイ病院との協議
3	11月19日	火	関係者への情報収集（進捗状況取りまとめ）
4	11月20日	水	ワークショップ実施（第1回）
5	11月21日	木	ワークショップ結果取りまとめ
6	11月22日	金	情報収集、合同中間評価報告書ドラフト作成
7	11月23日	土	合同中間評価報告書ドラフト作成
8	11月24日	日	官団員移動（JL731 成田 9:50発→香港→ハノイ 16:05着） 前半調査結果の情報共有
9	11月25日	月	専門家との打合せ、JICA事務所・保健省・計画投資省訪問
10	11月26日	火	Ha Nam省総合病院視察
11	11月27日	水	午前 ワークショップ実施（第2回） 午後 合同評価の協議、中間合同評価報告書の作成
12	11月28日	木	合同調整委員会の開催
13	11月29日	金	午前 ミニッツ署名・交換 午後 保健省、計画投資省、日本国大使館、JICA事務所への報告
14	11月30日	土	帰国（JL766 ハノイ 7:55発→成田 14:25着）

1 - 4 主要面談者

（1）保健省（MOH）

チャン チョン ハイ
Dr. Tran Trong Hai

Director General, Department of International
Cooperation

チャン ティ ザン フォン
Ms. Tran Thi Giang Huong

Expert, Department of International Cooperation

（2）計画投資省

グエン スアン ティエン
Mr. Nguyen Xuan Tien

Expert, Foreign Economics Relations Department

(3) バックマイ病院

チャン クィ Prof. Tran Quy	Director General
グエン チ フィ Assoc. Prof. Nguyen Chi Phi	Vice Director
グエン クオク トゥオン Dr. Nguyen Quoc Tuan	Head of General Planning Department (GPD)
チャン トイ ハン Dr. Tran Thuy Hanh	Head of Personnel Department
グエン ティ ガー Dr. Nguyen Thi Nga	Head of Direction Office of Health Care Activities at Provincial and Lower Levels (DOHA)
ゴ ティ グアン Mrs. Ngo Thi Ngoan	Head of Nursing Service Department
ダン ゴック ディン Dr. Dang Ngoc Dinh	Vice Head, Medical Equipment and Material Department
グエン ゴック ヒエン Mr. Nguyen Ngoc Hien	Head of Finance and Accounting Department
グエン トウ ホ Dr. Nguyen Thu Ho	Head of Gastroenterology Department
グエン ダット アイン Dr. Nguyen Dat Anh	Head of Emergency Department
ファム ティ ホン ホア Dr. Pham Thi Hong Hoa	Head of Endocrinology and Diabetes Department
グエン ザー ビン Dr. Nguyen Gia Binh	Head of ICU Department
グエン ティ フォン Ms. Nguyen Thi Huong	Staff of GPD (Group of Secretariats and Foreign Affairs)

(4) 専門家

金川 修造	チーフアドバイザー
河村 恵子	業務調整
隅田 一明	教育・啓発(IEC)
實吉 佐知子	看護管理
田中 雅子	公衆衛生
白濱 訓孝	病院管理(情報)

(5) 在ベトナム日本国大使館

Miyagawa Kenji	一等書記官
菊森 佳幹	二等書記官

(6) JICAベトナム事務所

金丸 守正	所 長
戸川 正人	次 長
林 由紀	所 員
小林 一之	企画調査員

1 - 5 調査項目・評価手法

(1) 評価手法

本プロジェクトでは、1999年10月の実施協議調査団によりベトナム側に対し、プロジェクトの計画、運営について相互の合意を得ることを目的としてPDMを適用する提案が行われ、協議の結果、PDMが作成された(PDM₀)。

PDMは、その性格上、プロジェクトの進行に合わせ、関係者の合意の下、改善や修正されていくのが通常のプロセスである。本プロジェクトでは、2001年3月に指標を見直してPDMが改訂された(PDM₁)後、2002年9月にPDMが再度改訂された(PDM₂)。この際の主要変更点は以下の2点であった。

IECに関する活動を追加

病院管理、臨床医学に関する指標を修正

今回、中間評価調査団は、PDM₂にターゲットグループ等欄外の記載を追加して、この2年10か月間のプロジェクト期間を対象とする評価のためのPDM(PDM_e)を作成した。なお、評価の結果、プロジェクト後半のニーズに従い、PDMを修正することが提言された。

(2) 主な調査項目と情報・データ収集方法

PDM_eに基づき、実績、実施プロセスの確認及び評価5項目ごとの調査項目、情報・データ収集方法を次のとおり設定した。

評価項目	調査項目	必要なデータ	調査方法
実績	投入実績	日本側、ベトナム側の各投入リスト	プロジェクト資料レビュー
	成果	1 病院管理 2 臨床医学 3 看護管理 4 検査室管理 5 地域医療指導 のPDM上の指標	プロジェクト資料レビュー、インタビュー
実施のプロセス	活動の実施状況	活動実績	資料レビュー
	モニタリング	体制、PDMの変遷	資料レビュー
	オーナーシップ	予算、意欲等	資料レビュー
妥当性	上位目標と政策	保健医療分野政策	資料レビュー
	目標とニーズ合致	ターゲットのニーズ	インタビュー
	投入、活動と成果	投入、活動の妥当性	関係者への質問
	援助協調	他ドナーの援助状況	BMHへの質問
有効性	プロジェクト目標の達成度	プロジェクト目標各指標	資料レビュー、インタビュー
	成果達成の適正度	達成された成果は適正なものであったか	ワークショップ
	投入のタイミング	投入はタイミングよく実施されたか	ワークショップ
効率性	投入の実績	投入は有効に利用されたか	ワークショップ
	投入のタイミング	投入はタイミングよく実施されたか	ワークショップ
	カウンターパート	カウンターパートは引き続きBMHで勤務しているか	プロジェクト資料レビュー
	BMHで研修を受けたスタッフは北部ベトナムの病院で勤務を継続しているか	BMHで研修を受けた北部ベトナムの病院スタッフ数	プロジェクト資料レビュー
インパクト	北部地域への波及	研修、地域医療指導部（DOHA）活動状況	プロジェクト資料レビュー
	カウンターパートの意識改善	BMHスタッフの意欲に変化があったか	インタビュー、ワークショップ
	他地域への波及	北部以外の地域や第三国への波及実績	インタビュー
自立発展性	政策との一致	保健医療分野の政府政策の継続性	資料レビュー、インタビュー
	BMHの実施機関としての能力	カウンターパート数、スタッフ数	資料レビュー、インタビュー
		予算配分	資料レビュー
		収支バランス	財務諸表レビュー
	自主的管理	小集団活動状況	インタビュー